

NEWS RELEASE

報道関係各位

2014年5月14日

特定非営利活動法人がんサーネットジャパン

がん患者を支える冊子『もっと知ってほしい がんの分子標的薬のこと』 がん診療連携拠点病院 397 施設のがん患者相談窓口などに配布

特定非営利活動法人がんサーネットジャパンは、日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社の支援、株式会社毎日放送、朝日新聞医療サイト・アピタルの協力のもと、分子標的薬について正しい情報を提供することを目的に「もっと知ってほしいがんの分子標的薬のこと」の冊子を製作し、今後、全国がん診療連携拠点病院の患者相談窓口397ヶ所に送付及び、各団体・企業などが実施するセミナー等でも配布いたします。また、がんサーネットジャパンのウェブサイト、MBSのウェブサイト、がん医療情報サイト「がんチャンネル」のウェブサイトなどからもダウンロードできます。

「もっと知ってほしい がんの分子標的薬のこと」は、和歌山医科大学 内科学第三講座 教授 山本 信之先生の監修のもと、がん患者さんや、ご家族など支援される方が知っておきたいことを16ページにまとめています。また冊子には分子標的薬を使用された患者さんの体験談を“Patient's Voice (患者の声)”として掲載しています。

1990年代後半からがん治療に導入されはじめた分子標的薬は、がん細胞の増殖に関わる特定の分子を狙い撃ちしてがんの増殖を抑える薬です。従来からある一般的な抗がん剤に比べ、副作用が少ない「夢の薬」ともてはやされた時期もありましたが、抗がん剤とは違った副作用が出てくることもわかってきています。この冊子では、分子標的薬について、そのメカニズムやどのようながんの治療に使われるのか、また副作用はどのようなものがあり、どのように対処したらいいのかについて説明しています。

この冊子を制作するにあたって、米国で患者・家族に広く利用されているNCI(National Cancer Institute)発刊の冊子などを参考に、患者・家族が納得して意思決定し、自分らしくがんと向き合えるように、自らの病気や治療法を知り、学ぶことができるものを目指しました。全国のがん診療連携拠点病院での設置率も約70%¹と、多くの方に利用していただけるようになりました。私たちの冊子が、今まさに治療と向き合うための一助となることを願っています。



特定非営利活動法人がんサーネットジャパン

1991年二人の医師により、米国における乳がん患者向け冊子を翻訳・出版・無償配布した事に始まります。その後、各種がん患者向け書籍の出版、NCIがんサーファックスの翻訳提供(現在終了)、NCI PDQの翻訳 Web 公開(現在更新終了)、電話・手紙・メール・ファックスでの「セカンドオピニオンコール」等のサービスを提供してきました。2002年には、東京都よりNPO法人格を取得し、同年、がんサーネットジャパンホームページが日経インターネットアワードを受賞しました。2007年1月からは組織を一新し、専用事務局を開設し、がん医療の啓発イベントの開催、教育事業、市民へのがん啓発活動を行なっています。詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.cancernet.jp/>

¹ がんサーネットジャパン 2013年 がん診療連携拠点病院アンケート調査より

【冊子に関するお問い合わせ先】

NPO 法人がんサーネットジャパン
Tel. 03-5840-6072 / Fax. 03-5840-6073